

コード No.

提出日：平成 30 年 5 月 15 日

## 平成 29 年度「ロヒンギャ難民緊急支援」報告書

ジュマ・ネット 下澤 嶽

### 1. プログラムの目的

2016 年 10 月、2017 年 9 月にロヒンギャ武装グループの襲撃事件に端を発したミャンマー軍のロヒンギャへの暴力的弾圧のため、約 70 万人のロヒンギャ難民がバングラデシュへの流入した。国際援助が安定するまでの 2017 年 3 月から 10 月にかけて食料支援を行なうこと。

### 2. 主な活動内容・スケジュール

2016 年 10 月	事件が発生し難民が増加。10 月末頃から、現地政府や NGO に連絡をとり始める。
2016 年 11 月	ジュマ・ネット内部で、ロヒンギャ支援を決定
2017 年 1 月	現地 NGO である APCD と連絡がとれ、支援活動の合意
2017 年 2 月	APCD が NGO ビュローの許可を得る。ジュマ・ネットから最初の送金 100 万円。
2017 年 3 月	最初の食料支援、6200 キロの食料を 620 世帯に配布。ジュマ・ネットとしてキャンプ訪問を試みるが、テログループの反政府活動が活発で入れず。
2017 年 4 月	ジュマ・ネットから 2 回目の送金 100 万円。5400 キロの食料を 600 世帯に配布。
2017 年 5 月	庭野平和財団からの助成金 100 万円を現地に送付。5850 キロの食料を 600 世帯に配布。
2017 年 8 月	2 回目の襲撃事件が発生。大量の難民がバングラデシュへ。
2017 年 9 月	流入のピーク時にジュマ・ネットとして現地に視察に入る。4000 キロの食料を 430 世帯に配布。
2017 年 10 月	現地 NGO の APCD と EKHOTA の二つの NGO と連携して食料配布を実施した。16000 キロの食料を 1000 世帯に、また 4000 キロの食料を 400 世帯に配布。合計、のべ 3650 世帯に 1 週間分の食料を配布した。

2017年3月23日	6200kg	620世帯
2017年4月23-24日	5400kg	600世帯
2017年5月23-24日	5850kg	600世帯
2017年9月21日	4000kg	430世帯
2017年10月15日	16000kg	1000世帯
2017年10月19日	4000kg	400世帯

\*食料の中身は、圧縮米、ビスケット、砂糖、じゃがいも、塩、生米などで、パケットにしておよそ1週間分を配布した。

\*当初は、活動期間は2月から6月までの予定であったが、8月25日に2回目の大流入が始まったため、食料支援活動は9月、10月にも行なうこととなった。

\*2017年10月から国際社会の支援が安定して入ってきているので、食料支援は中止している。2018年度はキャンプ生活が長期化する見込みから、トイレの設定を計画している。

### 3. 助成を受けた活動の報告(様子がわかる写真等があれば貼付してください)

4月23日、2回目の食料配布の様子





10月15日配布の様子



#### 4. 活動の成果(成果物などがありましたらご紹介ください)

僅かながらでもロヒンギャ難民の人々の危機的な状況に対して、生活のスタートを順調にするための支援ができたことは大きな成果であった。

また、日本の NGO の中ではいち早く支援活動を行なってきたため、日本国内の NGO、マスコミなどへの助言、コメント、情報提供ができた点である。2017年6月以後は、ほかの日本の NGO の現地に入るようになり、その誘導的な役割を果たすことができたと思う。

## 5. 今後の課題

(1)一番の課題は帰還作業の適切さで、両国から難民の帰還が急がされているが、難民自身の希望に基づいて民主的な作業が行なわれるか、しっかりそのプロセスを監視していく必要がある。

(2)92年のときと同じように、帰還作業が長引く様子が濃厚で、長期のキャンプ生活になることは確実である。難民への長期的視点にたった支援が必要となっている。衛生環境の改善はもちろんだが、なんらかの教育支援も必要とされている。

(3)難民たちが近隣社会やバングラデシュ社会から、不利な立場につけこまれて、人身売買、売春、児童労働といった搾取の対象になる可能性が出てきている。こうした状況を監視していく活動が重要である。

以上